



尊いのは足の裏

「親孝行したいときには親はいず」
「孝行のしたい時分に親はなし」

今月十六日は、「敬老の日」です。みなさんにとって一番の親孝行はなんでしょうか。

好きな品物や食べ物・金券などのプレゼント。旅行や写真撮影といった想い出作り。はたまた肩もみやマッサージなど。

以前、私は敬老の日に祖母の入院をお見舞いし、初めて足の爪を切ってあげたことがあります。たいそう喜んでくれましたが、私には衝撃的でした。まさかこんなにもザラザラで分厚くひびも入り、濁った爪と足の裏。お世辞にも綺麗とは言えないものでした。頑張った爪を歩んで来た証しなんだとしみじみ感じ入ったことを思い出します。この足の裏を支えに子や孫を負ってあやしたり、朝早くから夜遅くまで毎日休みなく家事や内職をして頑張ってくれたのだと思うと、何とも言えず熱い思いが込み上げて来たのを思い出します。

「尊いのは足の裏」

足の裏がないと立つことや歩くことはできません。また全体重がかかり、体の様々な器官につながるツボがたくさんあることから「第二の心臓」とも言われるほど健康にとって重要な部位であるのが、足の裏。そんな足の裏に支えられて私たちは日々、当たり前のように歩き移動し生活しています。改めて足の裏に感謝です。

総本山知恩院には仏教を開かれ、弘められたお釈迦様の足の裏。「仏足石」があります。法然上人も同様に足の裏を頼りに乱世の時代を駆け抜け、万民救済の仏法・お念仏の御教えを命掛けて弘められたのです。その法然上人が、「お念仏の生活・信仰に導くことこそが何よりの親孝行である」と仰せなのです。それはこの世の幸せに限定されない後生の幸福をも願ってのことだからです。

南無阿弥陀仏とお念仏を申せば、必ず阿弥陀様が護り導いてくださり、そしていまわの時には、直々にお迎えに来て極楽浄土へとお連れくださるのです。

お念仏の元祖、法然上人の尊き足の裏から紡ぎ出されたご生涯を慕いつつ、最高の親孝行であるお念仏をご一緒にお称えしてまいりましょう。